

令和元年度第2回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和元年10月10日(木) 10:00~12:00
- 開催場所 栗東市立図書館 小会議室
- 出席者 澤絢子、國松完二、吉川なおみ、大屋邦代、宗本和子、井之口哲也、  
青木春美、伊丹佳美
- 事務局 教育部長、図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 2人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章唱和  
会長挨拶

2、協議事項

- ①平成30年度事業報告・評価について
- ②令和元年度事業進捗について
- ③その他

3、閉会

教育部長挨拶  
副会長挨拶

1、開会

- 澤会長より挨拶

現メンバーでの最後の会議となる。それぞれの立場から、図書館の充実に向けて活発に協議し、貴重な実りのある時間となるようにしたい。

2、協議事項

- ①平成30年度事業報告・評価について

(事務局) 栗東市立図書館活動報告に沿って説明

併せて、運営方針に定める目標値一覧(案)について説明

(委員) 評価一覧について、数値の推移データが紙面にない。

- (事務局) 今回の評価対象分のみ掲載していた。改める。
- (委員) 令和3年度の目標数値となっているが、スタートは平成30年度か。
- (事務局) 平成29年度開始となる。
- (委員) 5か年の目標だと、起点は平成28年度ではないか。
- (事務局) 目標設定にあたって平成28年度の数値がベースとなっているが、評価については、平成29年度からが対象となっている。ご説明にあたっては、ベースとなった数値があった方が良かったと思う。
- (委員) 目標値は、令和3年度に達成すべき目標かと思う。年度ごとの評価は必要かもしれないが、障がい者サービスの利用人数は昨年度より増えており、同じペースで増えれば、目標値が達成できる。自己評価は、少し厳しすぎるのではないか。
- (委員) 貸出冊数や利用人数は、取り組みに対し効果が出るかどうかかわからないが、購入冊数は予算さえつけば達成できる。市としてどう考えているか。
- (事務局) 議会や第6次総合計画の策定の中でも、図書館の運営のあり方や、子どもの本離れの対策について、様々なご意見をいただいております。しっかり取り組んでいきたいと考えている。財政的にはまだまだ厳しいが、学校図書館の蔵書の充足率の低さを含め、予算確保に向けて努力していきたい。
- (会長) 謙虚に厳しく自己評価が行われていると思う。図書館からの啓発によって目標値が達成できそうな項目もあるし、市役所の理解を得なければならない項目もある。今、ご意見が出た通り、自己評価を3にした方がいいのではというものもあるだろうか。
- (委員) いきなり5年先と比較するのではなく、ロードマップを作り、各年の達成目標を定め、その数値と比較することにより自己評価を行うのが本来の姿ではないか。
- (事務局) 計画をたてた時に各年の目標数値は持っていたが、今回、資料として出すことができていなかった。自己評価については、昨年度から数値が下がっていることもあり、自己評価としては3をつけるのは厳しいのではないかと考えた。
- (委員) その意味では、年間蔵書購入冊数・郷土資料の収集冊数は、前年度より下がっているが、自己評価3となっており、一貫性に欠けたのではないか。
- (事務局) 郷土資料の収集は、紙媒体での発行が行われない資料が増え、収集すべきものを収集できなかったのではなく、収集するもの自体が減ったという意味で、自己評価3とさせていただいた。購入冊数は、図書館でも悩んで3としたが、2でも良かったかとも思う。
- (会長) 今、説明のあった通り、表には出ていないが一定の基準を持ち、自己評価されているとのことで、ご了解いただけますか。
- (委員) 利用実績が減っている原因のひとつとして、電子書籍が、利便性等のメリットが大きいため、利用されているのではないかと推測もできる。その意味では、図書館離れイコール本離れとは限らないように思う。
- (事務局) 実際に本を手にとって、めくって、読んでいく、その習慣付けも必要かと思う。

学校では、その取り組みをしていくことを考えている。まずは本を手にとってもらえる環境づくりをしっかりとやっていきたい。

(委員) 自分は紙の本派だが、今の子供たち、特に中高生はどのようなかな、と感じる。

(事務局) インターネットは旬の情報はあるが、図書館には蓄積した情報がある。このあたりを図書館の魅力として出していかななくてはならないのかなという思いはある。

(事務局) 県内でも利用が落ちている館は多いが、栗東は減少割合が大きい。守山や野洲の一館分の図書費より低い図書費で2館を運営しており、いつ来ても同じ本が棚にあり、魅力がないと思われてしまったように感じている。

(会長) 限られた予算の中で、最大の効果をあげるよう、図書館も頑張っているし、市役所からも理解をいただいて支援いただくということで、取り組んでほしい。

## ②令和元年度事業進捗について

(事務局) 資料に沿って説明

(委員) 7月から敷地内禁煙とのことだが、吸い殻のポイ捨てなどはないか。

(事務局) ポイ捨ては発生している。先日は玄関前で喫煙している人がいたと、利用者からお知らせいただいた。しっかり理解していただくよう取り組んでいく必要があると思っている。

(委員) たくさん事業を実施しているが、事業内容として、ターゲットをある程度子どもに絞っているのか。

(事務局) 様々な方を対象として行っている。今年度で言えば、定家亜由子さん講演会、暮らしと図書館講座は、普段図書館に来られない大人も対象に、来館を促すことをテーマにしている。いろいろな切り口で事業を考えている。

(委員) 栗東市民が年代・性別関係なく来館したら一番良いが、ターゲットを絞らないと、事業内容が効果をあげたのかどうかが見えにくいと感じた。数字で管理してもらえると、わかりやすい。ターゲットを明らかにし、参加者人数に目標を設定したりすることにより、例えば子ども対象なら、青年会議所のほか、子どもに向けて発信している団体があり、そういった団体と連携していけることもあるかと思う。

(事務局) 図書館は、PRが下手という指摘もあり、転換していかななくてはならないと思っている。様々なネットワークを含め、取り組みをさせていただきたいと思う。

(委員) ターゲット、目的が明らかであれば、ジョイントできる部分もあるのかなと感じる。

(事務局) お力をお借りしていきたい。

(委員) 栗東は15年までは人口が増えていく予測だが、25～35歳が流入している一方、35～45歳は流出超。今までとは世代構成が変わっていくので、それに応じた対応は考えておいた方が良いと思う。

(事務局) 西館で小さな子どもが減ったなど、体感として感じていることもある。小さなことからでも、状況にあわせて取り組んでいきたい。

(委員) 開架室の空調工事で、騒音等の周知について、また、暖房が使用できない期間はストーブによる対応ということで、安全面をどういう風に考えているかお聞きしたい。

(事務局) 学校にもよく使われるブルーヒーターを設置する予定。児童コーナーの安全確保は心配している。カウンターから見える位置に配置するとコーナーが寒くなるため、暖房が使用可能な会議室を開放するなどを検討している。

騒音について、壁面タイル工事の時ほどの発生はないが、機器の組み立ても図書館内で行うため、一定の騒音は発生する可能性はある。確認し、周知していきたい。

(会長) 事業を、図書館はもちろん、ボランティア団体の方にしっかりと支えていただいている。青年会議所さんの方からもご支援いただけたらありがたい。

(委員) 例えばNPOの若い学生の団体など、子ども向けのイベントをしているので、図書館で子どもを喜ばせる企画など、知っていただくきっかけとしてお手伝いできることはあるかと思う。

(事務局) ありがとうございます。

### ③その他

(事務局) 「栗東市立栗東西図書館のあり方」について、完成版ができたことの報告

(事務局) 5月にご提案をお願いしたドリンクコーナーの名称について、4案いただいている。「持参ドリンクスペース」「オアシスコーナー」「いっぱいコーナー」の3案と、ドリンクコーナーに名前を付けず、併設予定のチラシコーナーの名前をそのまま使った「まるっぽ栗東コーナー」。ご意見をお願いしたい。

(委員) 名称を、まるっぽコーナー以外にした時は、まるっぽコーナーは併記になるか。

(事務局) 並べて掲示する形になると思う。表記の仕方は、例えば「オアシススペース」にするなど、工夫したい。

(委員) ペットボトル等、蓋つきの飲料に限ることをしっかり掲示しておかないと、缶ジュースを持って入ってくるケースなどがあると思う。何をそこで飲めるのかは、具体的に説明が必要。名称としては、コーナー名としてまるっぽ栗東コーナーとし、ドリンクコーナーの呼称として、オアシススペースかいっぱいスペースが良いかなと思う。

(委員) 持参ドリンク可などの説明を掲示するなら、コーナー名は必要ないように思う。持参ドリンクの名称は、持ち込み可能な飲料について、誤解を与える可能性もあるし、抽象的な名前だと、イメージを掴みにくい。

(事務局) 名前を付けるのには、持参した飲料を飲むことが可能なスペースができたことをPRする意味もあったが、おっしゃるご意見も確かにもっともと思う。

(委員) 「まるっぽオアシス」とつけるなどもあり得るのではないか。

(委員) コーナーの説明については、最初さえ丁寧に説明したら、後はさほど問題にならないように思う。

(会長) 今後は外国人の対応も必要だし、今風の名称だと高齢者が理解しにくいこともあり

うる。文章での説明は読めないこともあるので、説明については図解での表示が良いように思う。運用面とあわせて再度検討いただくということでしょうか。

(事務局) 議事録をお送りする際に、事務局の再検討案をお知らせさせていただく。

(事務局) その他、配布した資料について説明

(会長) 新聞記事の情報提供を続けてくださっている。石田前会長の熱意に頭が下がる。

(委員) 図書館ホームページについて、システム入替に伴い、横断検索のリンクが消えている。便利で使っていたので、ぜひリンクをはっていただきたい。

(事務局) 意図的に消したということではなかった。リンクを貼れる位置など、確認させていただく。

(委員) リンクがないからといって予約が減っているわけではなさそうではある。

(事務局) 予約される方は、どちらかという、図書館のデータの中からショッピングのような使い方で予約される方が多いように思う。

(委員) 紙媒体の本は減っている。自分の子どもも、マンガをスマホで読む。一定の月額で雑誌を何でも読めるサービスもあるし、高校生は、一日の大部分をスマホに使っている。絵本を子どもに見せたいと思っても、母親も、子どもが外出先で騒いだ時などはスマホの動画を見せてしまう。図書館がどれだけ頑張っても、無理なところはあり、年間貸出冊数70万冊は少し目標が高すぎるのではないか。

(委員) 昔なら子連れの親が本を一冊持って、静かにさせるときに読んでいたが、今の母親は動画。子どもは確かに静かになる。それが時代の流れかなと思う。

(委員) 今まで読まない子に本を渡そうとなっていたのが、今は動画に夢中な子に本を見ろと言わないとならず、難易度が上がっている。ターゲットをどこにするかという話もあったが、図書館に来た子どもたちに良い体験をしていただいて、小学校を卒業しても図書館を忘れないでいてもらえるようにしたい。

(委員) 学校の図書室を充実すると同時に、今、一年生対象にしか行っていないお話し会・図書の利用の仕方の案内を各学年に行くのがベストではあるかと思う。

(事務局) 今、その利用啓発のためにも、学校司書を増やしていきたいと思っている。

### 3、閉会

#### ●部長より挨拶

社会情勢は厳しいが、図書館しかできない、図書館のここが良いというところを前面に出し、また、本と触れていただけるような環境をしっかりと作っていききたい。今後とも皆様のご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●副会長挨拶

このメンバーでの協議は今日が最後。11月からまた新しい委員が選出される。

今は、中高生だけでなく、大学生も本を読まなくなっている。その学生が社会に出、子どもができた時に、図書館に来てくれるかどうか心配。既に、若い子連れ家族の図書館利用は減少している。

協議会で、図書館の事業も応援する形で支えていきたい。